

 城西大学
 城西短期大学
坂戸キャンパス
東京紀尾井町キャンパス
<https://www.josai.ac.jp>

2022年度 入学式 1937人が仲間入り

2021年度
学位記授与式・
卒業証書授与式

城西の
スポーツ
強豪団体 新主将に聞く

JOSAI HUB (23号館) 講義室エリアがオープン

生涯にわたる友人を たくさん作ってほしい (藤野 学長)

1937人が
仲間入り



2022年度(令和4年度)入学式を4月4日、総合体育館で挙行了。あいにくの雨となりましたが、それでも満開の桜が祝福するキャンパスで、大学院、学部、別科、短期大学合わせて新たに1937人が城西の仲間入りをしました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため昨年同様、午前と午後の2部制で行われました。

藤野陽三学長は告辞で「本学の建学の精神『学問による人間形成』を私なりに解釈して『学生の協創力を培うのが大学の役割』と言っています」と語りました。また、「挨拶がきっかけで友人同士になり、生

「私以外は皆先生」を 心掛け人生の基礎を身につけよう (上原 理事長)

涯にわたる、かけがえのない友人関係が始まるかも知れません。どうか、在学中は、友達をたくさん作ってほしいと思います」と述べました=写真①。

また、上原理理事長は「いま社会が抱える難問を解くために必要とされている人材は、学び続ける人間、考え続ける人間、相互理解ができる人間です」と指摘。「私は、『私以外は皆先生』を心掛けてきました」と述べて、「これからの学生生活、いろいろと試してその後の人生に参考になるような基礎をしっかりと身につけていただきたい」と語りかけました=写真②。

今年度は初の試みとして、株式会社セキ薬品(埼玉県南埼玉郡宮代町)の関伸治会長(薬学部7期生)と株式会社ゼンコー(さいたま市大宮区)の海野弘幸社長(経済学部18期生)のお二人による同窓生代表挨拶がありました。午前の部で挨拶した関氏は「いま企業が求める能力はダン



◎関伸治氏◎海野弘幸氏

トツで、コミュニケーション能力です」と述べ、その能力を身につけるための要素として①誠実であること②多様な物の考え方③豊富な知識——を挙げ、「この3つを意識して学生生活を送っていただきたい」とアドバイスしました。

また、海野氏は「私が一番お伝えしたいことは、変化に対応できる者が生き残るということです。大学生活でいろいろなことを学び、経験し、変化を恐れないマインドを醸成してほしいと思います」とエールを送りました。

新入生代表の宣誓は、岡田夢花さん(経営学部)と小鷹麻湖さん(薬学部医療栄養学科)、戸口深友さん(短期大学)の3人。岡田さんは「幅広い専門的な知識と教養を身につけるとともに、ボランティア活動や課外活動に積極的に取り組み、社会に貢献できるよう、日々努力してまいります」と語りました。小鷹さんは「志す分野はそれぞれ異なりますが、夢の実現に向かって、有意義な学生生活となるよう、勉学等に励んでいきます」と述べ、戸口さんは「2年間という限られた時間の中で、それぞれの目標に向けて真摯に取り組むとともに社会に貢献できる大人へと成長していきたいと思ひます」と誓いました。



岡田夢花さん



小鷹麻湖さん



戸口深友さん

「開かれた大学」としての交流接合点

JOSAI HUB (23号館) 講義室エリアがオープン

2022
4

——グランドオープンは2023年9月を予定

建設中だった23号館(JOSAI HUB)の講義室エリアが4月にオープンしました=写真。周辺部分を含めたグランドオープンは2023年9月の予定です。

23号館は、既存の1・2・4号館と機器分析センターの機能を引き継ぐ鉄筋コンクリート7階建て延べ面積は2万1000平方m。1階部分をすべての面に開放した空間として、学生や教職員、地域との交流の接合点「ハブ」としての機能を持たせています。

大きなひさしの下の空間には、アクティブラーニングやプレゼンテーション、カフェ、ワークショップ、グループ学習など多彩な学びの形に対応した学習スペースや学生の居場所を備えています。ひさしの上には教室、研究施設など3つのエリアを配置。ひさし部分はルーフトラスとし

て、授業や研究で使用できるほか、憩いの場としての活用できます。

今後、1号館の解体などを経て、キャンパス入り口には門やゲートを設けない、文字通り、「開かれた大学」としての整備が進みます。大学正面からキャンパスのシンボルである清光会館へつながる大学の顔、が大きく生まれ変わります。



包括連携協定

新たに仙台育英学園高等学校、 横浜創英中学・高等学校と締結

2021
12.15、
20

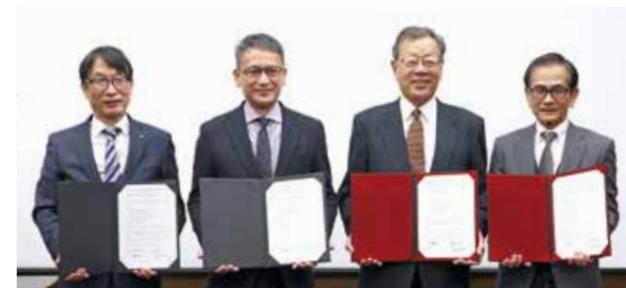
仙台育英学園高等学校(宮城県仙台市宮城野区)とは昨年12月15日、同高で包括連携に関する基本協定書を締結しました。また、横浜創英中学・高等学校(神奈川県横浜市神奈川区)とは同20日、東京紀尾井町キャンパスで締結しました=写真。

仙台育英学園高等学校は文武両道の名門校として知られています。特にスポーツでは甲子園や高校駅伝の常連校でサッカーやラグビーなども強豪。本学への進学実績もあり、さらなる交流の促進が期待されます。藤野陽三学長は「交流が今まで以上に活発になるよう期待しています」と挨拶。加藤雄彦校長先生は「今まで本学からは多数の卒業生が城西大学に進学しています。今後も変わらぬ交流を続けていきたい」と話されました。

横浜創英中学・高等学校の工藤勇一校長先生は2020年3月まで6年間、東京紀尾井町キャンパス近くの千代田区立麹町中学校の校長をお務めになりました。生徒の自律を重視した教育改革に取り組み、

宿題や定期テスト、頭髪・服装指導、クラス担任制を廃止するなどユニークな実践で話題となり、2020年4月から横浜創英中学・高等学校の校長に就任されました。藤野学長が「今後とも良いお付き合いをよろしくお願い致します」と挨拶。工藤校長先生は「麹町中におりまして城西大学さんとは色々なお付き合いをさせていただいていました。色々な形で連携が出来て、様々な取り組みが発展していくと非常に面白いなと思っています。ぜひよろしくお願い致します」と語られました。

本学の高校との包括連携は、武蔵越生高等学校や埼玉平成高等学校、鶴ヶ島清風高等学校、坂戸西高等学校、山村国際高等学校などに続き10校目となりました。





2021年度
学位記授与式・
卒業証書授与式

1807人が巣立ち
2022
3.17

「協創」「利他」で 新しい社会での大活躍を 知識のアンテナを高く、広く、深く、 幅広い考え方で相互理解

(藤野
学長)

(上原
理事長)

2021年度(令和3年度)の学位記授与式と卒業証書授与式を3月17日、総合体育館で挙行了しました。昨年度と同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、午前・午後の2部制で行いました。

穏やかな春の日に城西を巣立ったのは1807人で、卒業生総数は9万1771人となりました。博士3人をはじめ、修士と学士の代表者に藤野陽三学長から学位記が、留学生別科の代表者に卒業証書が授与されました=写真。また短期大学の代表者に草野素雄短大学長から学位記が授与されました。

藤野学長は告辞で「今、山積する問題を解決するために必要なのは、皆が協力して創造する『協創』なのです。今日は、もう一つの言葉を贈りたいと思います。それは自分よりも他人の幸せを願う『利他』という言葉です。卒業生の皆さんが『利他』の心をもって、これまでに培った『協創力』をもとに、新しい社会の創造に挑戦し、大きく活躍されることを祈念します」と呼びかけました。

また、上原明理事長は祝辞で「知識のアンテナを高く、広く、深く張り巡らせて情報を集め、幅広い考え方をもち、絶えず疑問を持ち続け、解決策を考え検証する。コミュニケーション力を高め、相互理解を図る」ことを挙げ、生涯にわたり学び続けることの大切さを強調しました。

これに対し柴田彩人さん(経営学部)と乗末彩香さん(理学部化学科)、佐藤珠子さん(短期大学)が答辞を述べました。柴田さんは「多くの困難を乗り越えこの場にいます。これは小さな自信となり、前へ進む原動力になると信じています」と述べました。乗末さんは「強く印象に残っているのは、研究室での卒業研究と吹奏楽部での活動です。城西大学で得た様々な経験を忘れずに精進していきたい」と語り、佐藤さんは「城西短期大学で培った知識や精神を活かして社会に貢献していきたい」と述べています。



柴田彩人さん



乗末彩香さん



佐藤珠子さん

令和3年度

城西大学・城西短期大学 奨学生第一種特待生を表彰

2021
12.17

—大学14、短大1
の計15名

昨年12月17日、水田三喜男記念館講堂で令和3年度城西大学・城西短期大学奨学生第一種特待生の表彰式を開催しました=写真。



この奨学生制度は創立者・水田三喜男先生の育英理想実現を目的に設立されたもので、人物・学業ともに優秀な学生を対象に授業料の一部を奨学金として支給しています。第一種は1年生が対象で、今年度は大学14名、短大1名の計15名が選出されました。

式典では、城西大学の藤野陽三学長、城西短期大学の草野素雄学長から各学部ならびに城西短期大学の特待生代表に楯が授与されました。両学長からの祝辞に応え、現代政策学部社会経済システム総合学科の狗飼瞬司さんが特待生代表の言葉を述べました。狗飼さんは「私たちの前期授業は、新型コロナウイルスの影響でハイフレックス型など特殊な学習環境となりました。通常とは異なる授業形態に、私たちはそれぞれに苦労や悩み、戸惑いがありました。しかし、今まで以上に意欲的な態度とひたむきな努力が求められる環境を乗り越えることで、私たちは大きく成長することが出来ました。奨学生全員が、建学の精神『学問による人間形成』に基づき、『協創』の精神を身につけ、城西大学生としての誇りを持ち、地域社会および国際社会に貢献し得る人材になれるよう精進していきます」と決意を述べました。

なお2年生以上が対象の第二種では昨年度、大学46名、短大1名が選出されています。

TJUP包括協定

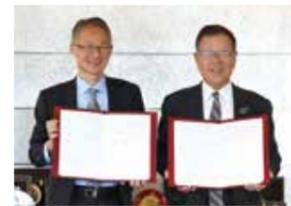
3事業者、2自治体と締結

城西大学、城西短期大学も参加する埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)が、株式会社エフケイ、パーソルテンプスタッフ株式会社、村松フルーツ製作所の3事業者と寄居町、和光市の2自治体と包括協定を締結しました。

TJUPは、埼玉県の東武東上線と西武線沿線の大学・短期大学、自治体、企業が連携するプラットフォームで、「多様な高等教育」「生活しやすい地域づくり」「地域産業の活性化」を掲げて2018年8月に誕生しました。これまで、地域産業の活性化を目的に様々な企業などと共同して活動の拡大を図ってきました。今回の5団体との包括協定もこの一環です。

昨年12月1日に締結した株式会社エフケイは、埼玉県を中心にカウンセリングを重視した相談型ドラッグストアと調剤薬局を展開しています。また1月19日に締結したパーソルテンプスタッフ株式会社は、労働者派遣事業や有料職業紹介事業などを事業内容とし、グループ拠点は国内外で約650。埼玉県には熊谷、所沢、新越谷、川越、大宮に拠点を置いています。

TJUPには、オブザーバーの埼玉県立大学を含めて城西大学、城西短期大学、東京電機大学、大東文化大学、日本医療科学大学など20大学・短大が参加。自治体会員は坂戸市や鶴ヶ島市、毛呂山町など21市町に上ります。



株式会社エフケイとパーソルテンプスタッフ株式会社と2市町も右側が藤野学長

防災・減災テーマに 初の地域連携シンポジウム

2021
11.12

オンラインでも配信

埼玉県や坂戸市の関係者の方々の招いて、防災や減災に関するシンポジウムが昨年11月12日、清光ホールで開かれました=写真。城西大学と城西短期大学が主催、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)が後援しました。本学が地域連携シンポジウムを開くのは初めて。2019年の台風で大学周辺でも被害が大きかったことから、テーマに防災・減災を選びました。



「埼玉県が直面する自然災害の実態と地方自治体の防災・減災対策」をテーマに、災害の専門家に地盤・地震災害と水害の実態を紹介いただくとともに、行政も交えて意見交換を行い、今後の防災対策、防災政策の方向について議論しました。同ホールのほか、オンラインでも配信され、地域の方々から熱心に耳を傾けました。

藤野陽三学長と坂戸市の石川清市長の開会挨拶に続いて、危機管理などを担当する県の橋本雅道副知事が「常に危機意識を持って備える」と題して基調講演。また、東京電機大学の安田進名誉教授による「地震と豪雨による地盤災害の実態」、埼玉大学大学院理工学研究科の田中規夫教授による「近年の水害の特徴と流域治水へ向けての視点」の基調講演もありました。

「防災・減災に向けて市町村行政はどう対応すべきなのか」をテーマにしたパネルディスカッションでは、石川市長と本学現代政策学部の飯塚規准教授、酒井宏平助教もパネリストとして参加、意見交換しました。

竹末愛瞳さん(経済学部)が 埼玉県スポーツ推進 審議会委員に

2021
11.24

経済学部勝浦ゼミの竹末愛瞳さんは昨年10月1日付で同審議会の委員に委嘱され、11月24日に藤野陽三学長に報告しました=写真。



埼玉県は、県のスポーツ推進計画などに関する事項を調査、審議するために県スポーツ推進審議会を設置しています。竹末さんは「子供のころからスポーツを経験してきて、その経験を活かして埼玉県のスポーツ振興に貢献したい」と公募委員に応募しました。任期は2年間で、11月11日に開かれた2021年度の第1回委員会にも出席。当日は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催結果のほか、コロナ禍でのスポーツ推進計画やイベント開催、学校の部活動などについて審議があったそうです。

2021年度 スポーツ優秀団体・優秀選手表彰式

2022
3.17

2021年度のスポーツ優秀団体・優秀選手表彰式が3月17日、清光会館で行われました。優秀団体は、全日本大学女子駅伝対校選手権で3年連続入賞などの女子駅伝部、日本学生陸上競技対校選手権の1600mフリーで8位入賞などの陸上競技部、関東学生女子ソフトボール選手権大会で優勝などの女子ソフトボール部、関東学生弓道選手権春季トーナメント大会で女子団体優勝などの弓道部が選ばれました。

優秀選手25人は次の通り(敬称略)。

- 砂岡拓磨、栗原直央、林晃輝=以上、男子駅伝部
- ▷藤村華純、渡辺光美、木村桜華=以上、女子駅伝部
- ▷鈴木涼太、伊奈颯太、深町飛太、マデロ ケンジ=以上、陸上競技部
- ▷伊澤友哉、川口朔弥、辰柳直輝、西周希、堀越竜成、野中在脩、浅賀凱斗=以上、サッカー部
- ▷今田まな、黒田菜那、小暮沙希、小嶋楓、宮崎遥希=以上、女子ソフトボール部
- ▷山田尚毅、塚田宰生、塩入瑞季=以上、弓道部

2021年度 永年勤続表彰

2021年度の永年勤続表彰の方々はこの通り(敬称略)。

- 【40年】吉野勇(現代政策学部事務室事務長)▷島田勝美(管財課)
- 【30年】尾崎裕(理学部化学科教授)▷原澤晴子(キャリアサポートセンター事務長補佐)▷原嶋信子(短期大学事務室)

産学連携の新しい試み

「ビッグデータマーケティング教育」実施 —DX時代の必要スキル獲得を目指す

2022
4.7~

経営学部は、埼玉県を中心に地域に密着したドラッグストアを展開している株式会社セキ薬品(埼玉県南埼玉郡宮代町、関伸治会長・関善夫社長)、ビッグデータプラットフォームを運営する株式会社True Data(東京都港区、米倉裕之代表取締役社長)と連携してビッグデータマーケティング教育=図=を実施しています。高等教育における産学連携の新しい試みとして注目されます。

4月7日から開講した田部溪哉准教授の「データベースマーケティングI」(全15回)において、学生たちがビッグデータマーケティングの実学を学びます。学生がビッグデータを活用し、セキ薬品の売り場づくりや店頭販促施策を企画提案します。売り上げ拡大を目的に、「ボディソープ」と「洗顔料」を取り上げ、地域のお客様が商品を選びやすく、欲しい

商品に出会い、新たに欲しい商品にも気付けるような売り場づくりを学生が提案。データ分析においては、ビッグデータマーケティングの手法を活用し、セキ薬品の購買データと、True Dataの生活者ビッグデータを重ね合わせて読み解きます。

取り組みを通じて学生と地域企業の連携を深め、地域における学習や人材育成の機会創出を図るとともに、将来の地域経済の活性化にも取り組んでいきます。またSDGs(持続可能な開発目標)の「4 質の高い教育をみんなに」に資する取り組みとして、産学連携で質の高い実践的教育の場を提供します。受講者が、DX時代に企業で働くうえで必要な技術的・職業的スキルを身につけられる教育を目指します。



数学者・岡本健太郎氏の特別講演会

2022
2.7

「数学×アートの世界」

図形、等式の美しさ解説 書道と切り絵も実演

数学者のほか切り絵アーティストや書道家としても知られる岡本健太郎氏を招いた特別講演会「数学×アートの世界」が2月7日、水田三喜男記念館講堂で開かれました。講演会は、「数理」と「芸術」の相互関係について新しい発想や知見を得ることを目的に、文理融合の協奏(協創)研究を目指す学長所管研究奨励金の採択研究の一環として開催されました。

岡本氏は1時間の講演で、作品の「モナリザ」に黄金比(当時は神聖比)を使ったレオナルド・ダ・ヴィンチや抽象画家のサルバドール・ダリ

らを挙げて「画家も当時の最先端の数学を重要視していた共通点があります」と指摘。図形だけでなく等式の美しさにも言及して数学の美しさを解説されました。また、パラメトリック曲線やフラクタル図形、平面タイピングを例に数学アートの興味深い世界と自らの切り絵の作品を紹介されました=写真。その後、約30分にわたり書道と切り絵の実演をされた岡本氏は「今後も色々と数学アートの切り絵の作品作りに励んでいきたいと思っています」と結ばれました。



大学院経済学研究科特別講義

2021
11.12

「坂戸市の地域活動・市民活動」

大学院経済学研究科による特別講義「坂戸市の地域活動・市民活動」が昨年11月12日、開かれました。坂戸市をもっと知ろうと、坂戸市教育委員会教育総務課長の岡本行広氏を講師にお招きしました。



岡本行広氏(左上)

岡本氏は、坂戸市発展の歴史のほか、人口構造や景観、お祭り、産業、特産物開発、さらに地場産食材の活用と各学校で作る自校式給食などを解説。岡本氏が担当する地域活動と市民活動について、その違いや活動の具体例も紹介されました。

聴講した大学院生からは、市内の地区ごとの年齢別人口の構成が違う理由についての質問に加え、学生ができるアルバイトが少ないといった意見もありました。留学生からは「市民活動などに参加したいが、方法がわからず残念」「焼き芋のイベントにぜひ参加したい」などとの発言があり、岡本氏が「welcomeです」と応えて、この日の特別講義を締めくくりました。

オンライン国際交流プログラム

ブダペスト商科大、サンカルロス大学と実施

2021
12.7
2022
3.3

国際教育センターは、ハンガリーの本学姉妹校ブダペスト商科大学(BBS)の学生と国際交流に興味を持つ本学学生とのオンライン交流プログラムを企画、今年3月までに4回の交流会を実施しました=写真。

本学では、2019年度までは毎年春休み期間中に本学の学生がBBSを訪問し、対面で交流を行うプログラム(国際グローバル研修)を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染拡大で中止となっています。このため、今回のオンライン交流プログラムが企画されました。



プログラムには、本学からは現代政策学部、経営学部、薬学部、経営学研究科の学生9人(日本人学生5人、留学生4人)と、BBSからは第2外国語で日本語を履修中の1~3年の学生9人が参加。「オンラインでの友達作り」をコンセプトに日本語を基本とし、英語、ハンガリー語も自由に使用して行われました。昨年12月7日に行われた第1回目では、教員と参加学生の自己紹介の後、パワーポイントでプログラムに参加した目的や趣味、特技、今後それぞれが交流の中で紹介したいテーマなどを思い思いのスタイルで紹介しました。

また、3月3日には薬科学科がフィリピンのサンカルロス大学とオンラインでの交流会を開催しました。薬科学科の1~3年生11人が参加。コロナ禍で変化した日常生活や大学生活について英語で話しました。予定の終了時間を大幅に延長する盛り上がりを見せました。

国内大学として有数規模

再生可能エネルギー導入プロジェクトがスタート

規模で、かつ先



坂戸キャンパス総合体育館南に太陽光発電設備

坂戸キャンパスでは、太陽光パネルを利用した再生可能エネルギー導入プロジェクトを始めました。温室効果ガスの排出量と吸収量・除去量を均衡させるカーボンニュートラルへ向けた活動です。

総合体育館の南側の旧バスケットコート・ゴルフ練習場エリアに地上設置型太陽光発電設備を整備しました=写真。容量は795kW。また、清光会館屋上には屋上置き型太陽光発電設備を設置しました。容量は11kW。合わせて806kWの容量は国内大学としては有数の

医療栄養学科の学生有志が企画・運営

2021
12.12~

梅農園「ワンデイカフェ」

カラーゲンや薬膳など踏まえたメニュー開発も

医療栄養学科の学生有志が、越生町の梅農園「山口農園」で、カフェの企画・運営をする取り組みを行っています=写真。同科で手掛けた「JOSAIカラーゲンようかん」の「べに梅味」の開発がきっかけ。山口農園では昨年5月、敷地内に「梅凜caffe」を開店。梅を使った料理やスイーツを提供しており、店主の山口由美さんから学生によるメニュー開発の提案がありました。学生たちが日替わりシェフを務めるワンデイカフェは



「Smile up cafe」と命名。昨年12月12日に初開催にこぎつけました。ランチメニューを1種類に限定し、デザートには梅を使ったパンナコッタを用意。20食以上を売り切りました。

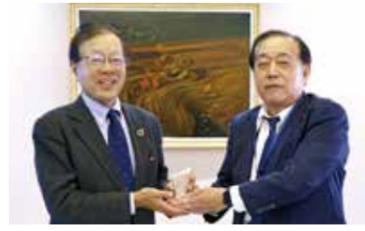
3月13日の2回目はランチメニューを2種類に増して実施。学生たちは「大変なことも多いけれど、それ以上に楽しい」とやりがいを感じています。カラーゲンや薬膳などを踏まえたメニュー開発も進め、これからは学生たちの梅凜caffe、を企画運営していくことにしています。

有給インターンシップ受け入れ実施

2021
11.19

株式会社アーベルソフト佐藤会長に 記念品贈呈

学生に有給インターンシップを実施していただいている株式会社アーベルソフト(坂戸市市師町、西岡和也代表取締役)の佐藤達雄会長に昨年11月19日、記念品を贈呈しました。藤野陽三学長が「毎年、学生を受け入れていただき、ありが



佐藤達雄会長(右)に記念品を贈呈する藤野学長

とうございます」と感謝の言葉を述べたのに対し、佐藤会長は「他大学の学生さんとの交流も刺激になりますし、私も学生さんからエネルギーをもらえて、とても楽しみにしています」とお応えになりました。

経済学部や経営学部、理学部数学科の学生に有給インターンシップを実施していただき、インターンシップ経験者ら本学卒業生4人が社員として働いています。約1カ月間のインターンシップでは毎回最後に成果発表会が開催され、本学教員も参加。参加学生たちが試行錯誤し工夫を凝らし各自の作品(アプリ等)を作り上げています。

株式会社アーベルソフトは1984年設立。従業員は52人(一昨年9月現在)。システム開発やインフラ構築、クラウド環境構築などを展開しています。

本学OBで1987年に歌手デビュー

2021
6

三田りょうさん キルギス共和国国立大学の 名誉教授に

本学経済学部卒業の歌手・三田りょうさん(62)が昨年6月、キルギス共和国との友好に尽力してきた功績により、アラバエフキルギス国立大学の名誉教授の称号を授与されました=写真。2013年にキルギス共和国の独立記念イベントに参加。5万人以上の観客を前に友好イメージソング「風の旅人」を披露し、この模様は動画投稿サイトにアップされ、100万回以上も再生されました。その後も毎年、イベントに招待され、国賓級のもてなしを受けてきました。

三田さんは、キルギスの魅力について「キルギスと日本は兄弟だったとの言い伝えが、キルギスにはあります。昔、魚が好きな人は東に渡

って日本人になり、肉の好きな人が残ってキルギス人になったという。性格的にも穏やかで日本人に親しみを持ってくれています」と説明。「たまたまアラバエフ大学から名誉教授の称号をいただきましたので、城西大学とアラバエフ大学の学生交流のお手伝いもできれば」と抱負。在学生に対しては「自分が信じたものがあるのであれば、やはり人生一度ですからチャレンジするのもいいのではないのでしょうか」とのメッセージもいただきました。

三田さんは1959年、東京都あきる野市生まれ。在学中は全學應援団に所属。作曲家・弦哲也氏に師事して87年に歌手デビューを果たしました。2000年、06年に日本有線大賞有線音楽賞を受賞しましたが、08年に悪性リンパ腫を発症する試練に見舞われます。しかし、闘病を経て2年後に復帰した三田さんは、悪性リンパ腫啓蒙のための「ライムグリーン・リボン」支援活動に協力。17年には音楽で健康促進を推し進める音楽健康福祉士の資格も取りました。18年には、東京都羽村市とキルギス共和国との友好親善ボランティア大使にも就任。昨年6月に、キルギス共和国を舞台に愛する人を迎えにいく男の旅路を歌った新曲「天山遥かに」をリリースしています。

「大学ビブリオバトル・オンライン大会2021」 本選準決勝に城西大学学生が出場しました

「ビブリオバトル2021 in 城西大学」(10月6日開催)でチャンプ本を発表した、現代政策学部2年の小泉亮汰さん=写真=が、12月12日開催の「大学ビブリオバトル・オンライン大会2021」準決勝2日目(第5試合、5名出場)に出場しました。残念ながら決勝進出にはあたりませんでした。質疑応答にもよどみなく回答し、学内大会から、よりブラッシュアップされたように感じ

られました。小泉さんの発表本『なぜ僕らは働くのか』(池上彰監修)は図書館に所蔵があります。

準決勝2日目は大会主催者による動画で視聴可能です=URL①。詳細は大会公式サイト=URL②=からご覧ください。



第22回ライブラリーラウンジ 「チームで解答を導き出せ! コンセンサスゲーム体験会」を開催しました



12月16日、学生アドバイザー主催の第22回ライブラリーラウンジを開催しました=写真。学生、職員を含めた16名が、個人のモノの考え方や価値観の違いを知り、協調性を学ぶことができる「コンセンサスゲーム」を体験しました。このゲームでは、課題として与えられた困難なシチュエーションの解決方法をグループで話し合い、一つのコンセンサス(合意、総意)を導き出します。

今回、個々の知識や考えをもとに議論を重ね、4つのグループによって導かれた結論は実に様々でした。参加者アンケートには、全員から「内容に満足」の回答があり、授業での学びとは異なる経験となったようです。

開催レポートは図書館報「BookMark」2022年1月号に掲載しています=URL③。

日高市立図書館主催 「ビブリオバトル2021冬の陣」に 城西大学学生が出場しました

12月18日に日高市立図書館で開催された「ビブリオバトル2021冬の陣」に図書館学生アドバイザーの小松直人さん(経済学部4年)と外岡渉さん(経済学部3年)が出場しました=写真。「ビブリオバトル冬の陣」は高校生や地域の方などが出場する大会で、学生大会とはバトラーも聴講者も異なる雰囲気の中、2名とも大学生らしい視点での発表を見せてくれました。小松さんの発表本『medium:霊媒探偵城塚翡翠』(相沢沙呼著)は惜しくも受賞を逃しましたが、外岡さんの発表本『か』『く』『し』『ご』『と』『』(住野よる著)は見事準チャンプ本に選ばれました。すべての発表本は日高市立図書館のサイトで確認できます=URL④。

(※ 当館は、日高市立図書館と提携し、相互協力を図っています)



図書館学生アドバイザーが 図書館総合展「ポスターセッション」で 来場者投票賞5位を受賞

図書館総合展は図書館関連の国内最大イベントで、館種を超えた交流や情報交換が行われています。城西大学水田記念図書館は、毎年、ポスターセッションを中心に参加しています。今年度も第20~22回に引き続き、見事、来場者投票賞5位を受賞しました。受賞した第23回(2021年度)のポスター=写真=はオンライン会場で公開されています=URL⑤。



URL① <https://youtu.be/zrLCi5BMM8g>

URL② <https://univ-online.bibliobattle.jp/home>

URL③ <https://libir.josai.ac.jp/contents/josai/pdf/BookMark.htm>

URL④ <https://lib-hidaka.saitama.jp/event/?id=160>

URL⑤ <https://libopac.josai.ac.jp/libraryfair/libraryfair2021.html>

展覧会開催報告 水田美術館では、10月25日(月)から2022年3月11日(金)まで下記展覧会を開催しました。

展覧会Ⅰ「江戸動物誌 一生活のなかの動物たち」



【会期】2021年10月25日(月)~11月19日(金) 【会場】2階ギャラリー1、1階多目的スペース
経営学部の阿部常樹講師企画のもと、江戸時代における動物と人間との関係性や当時の動物たちの姿を、「食」「道具の材料」「愛玩」に焦点を当て、絵画と考古資料からご覧いただく展覧会となりました。

関連企画では、阿部講師によるスライドトークと展示解説、そして、早稲田大学人間科学学術院教授の谷川章雄氏を講師にお招きしての講演会を会場参加とオンライン参加の併用で開催しました。

同時開催としては、水田記念図書館所蔵の漢方古書コレクションから『水産図解』『魚貝能毒品物図考』の全図パネルと実物をギャラリー2で展示してご紹介しました。



阿部講師による展示解説

展覧会Ⅱ「第19回MOA美術館 坂戸・鶴ヶ島児童作品展」

【会期】2021年11月29日(月)~12月17日(金) 【会場】2階ギャラリー1、2



「MOA美術館児童作品展」は、子どもたちが興味関心を持ったことをひとりひとりの感性で絵に表現していくことで思いやりのある豊かな心を育てることを目的に1989年よりMOA美術館(静岡・熱海)が主催で行う児童作品展。「坂戸・鶴ヶ島児童作品展」は、その全国展に先駆けて行われる地域展となる坂戸市・鶴ヶ島市内の小学生たちの絵画作品展です。

現代政策学部の柳澤智美准教授のゼミでは、2015年よりボランティアとしてこの地域展の運営に参加し子どもたちの創作活動への支援を地域ボランティアとともに取り組んできました。

今年度から、会場を坂戸市文化会館から水田美術館へと移し、会期も3週間と長く設けて開催することとなりました。計14校231点の応募作品を展示し、柔軟な発想で伸びやかに描かれた子どもたちの作品をお楽しみいただきました。展覧会に係る準備や土曜開館での来館者対応など、学生たちが積極的に参加し、学生教育を示す展覧会にもなりました。



学生ボランティアによる展示作業

Art

美術館通信

展覧会Ⅲ「ふたつの東海道五十三次 一山下清と葛飾北斎」

【会期】2022年1月11日(火)~2月10日(木) 【会場】2階ギャラリー1、2



本展では、江戸と現代、二つの時代に登場した「東海道五十三次」をテーマとした作品をご紹介します。一つは浮世絵の大家である葛飾北斎が文化年間(1804~18)頃に手掛けた『東海道五十三次・絵本駅路鈴』、そしてもう一つが、「放浪の画家」として知られる山下清の遺作『東海道五十三次』。コロナ禍にあって、少しでも旅気分を味わっていただく展覧会となりました。



展示風景(山下清)



展示風景(葛飾北斎)

展覧会Ⅳ「震災後10年のいま、これから」

【会期】2022年2月22日(火)~3月11日(金) 【会場】2階ギャラリー2、1階多目的スペース



本展は、現代政策学部の土屋正臣准教授が企画し、東日本大震災から10年という月日により積み重ねられた様々な「記憶」を焦点に、被災現場写真のパネルと被災物11点を展示し、震災後10年の「いま」を改めて考えながら「これから」に想いをはせる場となりました。関連企画は、土屋ゼミ生達が、参加者とともに写真や被災物を見ながら、それぞれの震災への「記憶」を語り合うというもので、年齢も住む場所も異なる者同士の活発な「記憶」の共有がなされました。

もう一つの関連企画では、本展に全面協力いただいているリアス・アーク美術館(宮城・気仙沼)館長の山内宏泰氏にリモート出演して頂き講演会を開催しました。



展示風景



学生による展示解説

美術館長期休館のお知らせ

学内工事の関係で、水田美術館は2023年6月頃まで休館となります。

休館中は美術館講座やワークショップなどを予定しています! イベントの詳細、開館再開時期につきましては、美術館ホームページ、Twitterなどで随時お知らせします。



水田美術館 HP



水田美術館 Twitter

城西のスポーツ

強豪団体 新主将に聞く

各運動部の2022年度シーズンがスタートしました。活躍ぶりが目立つ城西大学の強豪団体の新主将に、新しいシーズンの意気込みや抱負を聞きました。

【プロフィール欄は敬称略】

男子駅伝部



藤井正斗 主将

箱根へ、
「城西は変わった」と
言われる基盤つくる

「箱根に出るためにチームを変えたい」ときっぱり。今までは1、2年生が寮の掃除をしてきたが、今シーズンからは上級生も一緒にすることに。「私生活の面から少しずつ変えていき、またチームのメンバーが固定されがちだが、メンバー争いを激しくして誰が入ってもおかしくないチームにしていきたい」と抱負を語ります。一昨年の箱根予選会は全体65位(チーム5位)と3位通過に貢献しましたが、昨年はスタート直後に他選手と接触があり、足を痛めて下位に沈みました。「最初から自分の弱さが出た」と反省し、「主要な大会で結果を残せる`走れるキャプテン、でいたい」と意欲を語ります。昨年の予選会は15位。「自分たちは弱い代と言われてプレッシャーはありますが、今年しっかり箱根に出て、次は本戦で戦えるチーム、そしてゆくゆくは優勝を狙えるチームになれるよう、『城西は変わったね』と言われるチームの基盤をつくらせたい」と意気込んでいます。

プロフィール

【部員数】 55人	【スカウト】 小林英二
【部長】 真野 博	【主 将】 藤井正斗 (経営学部4年)
【監督】 榑部静二	【主 務】 中村卓史 (経営学部3年)
【コーチ】 五十嵐真悟	

硬式野球部



山本 空 主将

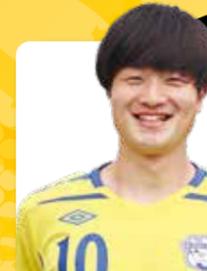
個々の力を上げ、
「義」スローガンに
チームで団結

首都大学野球リーグで2部は5年を数えています。昨秋のリーグ戦は10チーム中7位に終わりました。それでも山本空主将は「自分たちが目指しているのは、負けないチーム。負けなければ2部で優勝し、1部にもいける。1部や全国で勝てるようなチームじゃないと、2部でも勝ちきれない」と前を向いています。そのためには「体を大きくして個々の力を上げるとともに、チームの団結力が必要」と強調します。4年生は20人と少ないものの、話し合いを続けてまとまりのあるチームになっていると言います。今年度のチームスローガンは犠牲の「義」に決まりました。チームのために尽くすという意味を込めています。チーム一丸となつて6年ぶりの1部復帰に向けて前進します。

プロフィール

【部員数】 141人	【コーチ】 濱田友哉
【部長】 高柿 健	【コーチ】 稲見大輔
【監督】 村上文敏	【主 将】 山本 空 (経営学部4年)
【コーチ】 松岡 淳	【主 務】 鬼東哲生 (経営学部4年)

サッカー部



浅賀凱斗 主将

部員全員
感謝の気持ちを
持って日々取り組む

サッカー部は11年ぶりに昇格した関東リーグ2部を舞台に闘います。浅賀凱斗主将は「昇格できたのは昨年の4年生の活躍をはじめ、多くの方々の支援のおかげ。感謝の気持ちを持って、関東2部リーグで単に戦うだけでなく結果を残していきたい」と語ります。「目標は大きく設定しよう」と、関東1部リーグ昇格を掲げました。感謝の思いは、施設面にも及びます。「人工芝のグラウンドを2面持っている大学は少ない、新たに筋トレルームも出来ました。サッカーに打ち込める環境をつくっていただき、部員全員感謝の気持ちを持って日々取り組んでいます」。サッカー部は、男子サッカー部門に加え、フットサル部門、女子部門も活動中。今シーズンのスローガンは「共心動」。「同じ目標に向け、クラブ全体が動き、行動する」との意味を込めています。

プロフィール

【部員数】 107人	【GKコーチ】 佐々木亮太
【部 長】 佐々木達也	【コーチ】 今井光太郎
【監督】 東海林毅	【コーチ】 今野 拓
【ヘッドコーチ】 和賀 崇	【主 将】 浅賀凱斗 (経営学部4年)
【フットサル部門監督】 柴沼 真	【主 務】 野中在侑 (現代政策学部4年)
【女子部門監督】 巨 崇詞	

女子駅伝部



藤村華純 主将

新入生の
元気、明るさを
チーム全体に広げる

「大学駅伝日本一」を目指して赤羽周平監督、有紀子コーチ体制になって5年目のシーズン。赤羽監督が最初にリクルートした藤村華純主将や福岡摩耶選手(経営学部4年)たちが最上級生になりました。チームは、全日本大学女子駅伝と全日本大学女子選抜駅伝で3年連続の入賞を果たしていますが、表彰台にはあと一步。藤村主将は「学生最後の勝負。結果にこだわっていききたい。(全日本大学女子駅伝は)昨年の7位を受け止めて、ここ1年かけて徐々に目標を上げて優勝を目指せるようなチームをつくらせたい」と意欲を見せています。新チームには、昨年インターハイの1500mで3位(日本人2位)の兼子心晴選手(浜松市立)ら高校駅伝で活躍した3人が加わりました。藤村主将は「新入生は強いし、勢いというか元気がある。そして、とても明るいので、その明るさをチーム全体に広げることによってチームに仕上がるのでは」と期待を寄せています。

プロフィール

【部員数】 18人	【管理栄養士】 佐光菜々子
【部長】 佐藤純詔	【主 将】 藤村華純 (経営学部4年)
【監督】 赤羽周平	【主 務】 木村菜七 (経営学部4年)
【コーチ】 赤羽有紀子	

陸上競技部



伊奈颯太 主将

チーム内競争で
全体の底上げを
図っていく

陸上競技部は昨年、14年連続で保持してきた関東インカレの1部残留を保つことができませんでした。「現有メンバーで種目の出場枠を埋め、チーム内競争によってその枠を争うことによって全体の底上げを図っていききたい」と意気込みます。「自分の代で1部上げないと苦しい。そのプレッシャーがありますが、練習メニューにしても下級生がしっかり意見を言える関係もあり、チームの雰囲気はいい」と付け加えます。前年の高校ナンバー1記録保持者として城西大学に入学して、今年は最上級生になりました。種目は、日本歴代8位の記録を持つ千葉佳裕監督と同じ400m障害。ベストは1年時に出した50秒64のまま。日本選手権の参加標準の50秒40はもちろん、狙うのは一流選手の仲間入りの50秒切りです。「千葉先生に恩返しする意味でも、そろそろしっかり(50秒切りを)決めたい」

プロフィール

【部員数】 90人	【コーチ】 篠原康男
【部長】 柳下正和	【コーチ】 本塩 遼
【監督】 千葉佳裕	【主 将】 伊奈颯太 (経営学部4年)
【コーチ】 高橋正次	【主 務】 中山泰成 (経営学部4年)

女子ソフトボール部



森田あさひ 主将

一球入魂の気持ちで
練習、試合に
臨む

レギュラー7人が残った昨年と比べ、今年残ったレギュラーは4人。フレッシュなチームの新主将には、昨年副主将を務めていた森田あさひ選手(内野手)が決まりました。「試合経験をしているメンバーが少なく、技術があるわけではないので、一球入魂の気持ちで練習と試合に臨みたい。去年とは違うカラーのチームをつくらせたい」と抱負を語ります。一昨年のインカレ代替大会で全国大会では最高のベスト4に進出しました。昨年のインカレは期待されたものの、2回戦敗退でした。「打撃陣が投手を助けることが出来なかった」と悔やみます。悲願の日本一になるためには、「投手を盛り立てる打撃のレベルアップが必要」と分かっています。フレッシュだけに、伸びしろのあるチーム。「(持ち前の)明るさでチームを引っ張っていききたい」と言葉に力を込めました。

プロフィール

【部員数】 33人	【コーチ】 岩佐美歩
【部長】 山口理恵子	【主 将】 森田あさひ (経営学部4年)
【監督】 長澤淑恵	【主 務】 遠藤こころ (経営学部4年)
【コーチ】 二上香奈子	

男子ソフトボール部



小田澤一生 主将

小技と機動力を絡めて
試合に
打ち勝つ

「去年と比べて質を高めた練習ができるようになってきています。試合に出るのも上下関係なく、実力主義的なチームをつくらせたい」。小田澤一生主将は手ごたえを感じています。昨年のインカレは、準優勝した福岡大学に初戦で当たり、敗退しました。険しい大学日本一への道。小田澤主将は「全体的な能力は前の代から落ちていると思うので、小技と機動力を絡めて試合に打ち勝っていききたい。層の厚さに加え、複数のポジションができるなど全体的にチーム力を高めないと大きな大会では勝ち進んではいけない。夏のインカレに向けて今のうちから意識して練習していききたい」と抱負。部員全員が、蟹沢光浩監督の言う「あいさつなど人間として普通に出来ることを当たり前にする」を心がけています。「『城西でソフトボールをやりたい』という入部者が増えているのは、心強くありがたいです」

プロフィール

【部員数】 32人	【コーチ】 飯嶋恭光
【部長】 木村聡一郎	【主 将】 小田澤一生 (経営学部4年)
【監督】 蟹沢光浩	【主 務】 小坂 匠 (経営学部4年)